平成 13年 12月期 個別財務諸表の概要

平成 14年 2月 22日

上場会社名 株式会社 アサツー ディ・ケイ

上場取引所 東

東京都

コード番号 9747

本社所在都道府県

問合せ先 責任者役職名 特別顧問

TEL (03) 3547 - 2028

氏 名 鎌 徳弥

中間配当制度の有無 有

決算取締役会開催日 平成 14年 2月 22日 定時株主総会開催日 平成 14年 3月 28日

単元株制度採用の有無 無

1. 13年 12月期の業績(平成 13年 1月 1日 ~ 平成 13年 12月 31日)

(1)経営成績

,	売 上	高	営 業	利 益	経 常 禾	川 益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
13年 12月期	358,830	5.3	4,085	12.9	5,287	9.7
12年 12月期	340,888	6.5	3,618	79.8	4,818	53.5

	当 期 純 利 益		1 株 当 た り 当期純利益	潜在株式調整 後1株当たり当 期純利益		総 資 本 経常利益率	売 上 高 経常利益率
	百万円	%	円 銵	円 銭	%	%	%
13年 12月期	1,787	-	34.70	-	1.6	2.6	1.5
12年 12月期	2,259	40.1	43.74	·	2.1	2.5	1.4

(注) 期中平均株式数

13年 12月期 51.502.809 株 12年 12月期 51.655.400 株

会計処理の方法の変更

有

売上高、営業利益、経常利益、当期純利益におけるパーセント表示は、対前期増減率

(2)配当状況

	\						
		1株当たり	年間配当金		配当金総額	配当性向	株主資本
			中間	期末	(年間)		配当率
ſ		円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
ı	13年 12月期	18.00	9.00	9.00	920	-	0.8
	12年 12月期	20.00	9.00	11.00	1,033	45.7	1.0

(3)財政状態

	総 資 産	株 主 資 本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
13年 12月期	212,773	116,540	54.8	2,300.77
12年 12月期	195,229	106,925	54.8	2,069.97

⁽注) 期末発行済株式数 13年 12月期 51,655,400 株 12年 12月期 51,655,400株 期末自己株式数 13年 12月期 1,002,631 株 12年 12月期 2,579株

2.14年 12月期の業績予想(平成 14年 1月 1日 ~ 平成 14年 12月 31日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株計	当たり年間配当	金
				中間	期末	
	百万円	百万円	百万円	円 銭	円 銭	円 銭
中間期	175,000	2,780	100	9.00	-	-
通期	365,000	5,400	490	-	9.00	18.00

(参考)1株当たり予想当期純利益(通期) 9円67銭

<u>1. 貸借対照表</u> (単位:百万円)

		Ę		(+ W. F
期別	平成 13 年 12 月 31		平成 12 年 12 月 31	
科目	金額	構成比	金額	構成比
(資産の部)		%		%
流動資産				
1.現金及び預金	11,316		10,727	
2.受 取 手 形 9	16,465		16,660	
3.壳 掛 金 5	74,669		80,088	
4.有 価 証 券 2,4	5,245		14,019	
5.自 己 株 式	-		7	
6.制作支出金3	6,963		5,575	
7.未 収 入 金	4,642		-	
8.前 渡 金	39		42	
9.前 払 費 用	337		125	
10.繰延税金資産	813		749	
11.そ の 他	448		539	
12.貸 倒 引 当 金 流 動 資 産 合 計	514	FC C	515	05.0
流動資産合計 固定資産	120,428	56.6	128,020	65.6
┃				
1.建物 物	1,426		1,528	
2.構 築 物	21		25	
3.車 両 運 搬 具	40		38	
4.器 具 備 品	273		317	
5.土 地	960		960	
有形固定資産合計	2,721	1.3	2,870	1.5
(2)無形固定資産	,		,	
1.営 業 権	22		32	
2.借 地 権	1		1	
3.ソフトウェア	2,214		1,664	
4.そ の 他	78		78	
無形固定資産合計 (3)投資その他の資産	2,316	1.1	1,777	0.9
1.投資有価証券 2,4	23,348		19,857	
2.関係会社株式 4	53,472		30,059	
3.出 資 金	982		742	
4.関係会社出資金	108		108	
5.長 期 貸 付 金	182		19	
6.従業員長期貸付金	397		399	
7.関係会社長期貸付金 4	1,380		1,522	
8.更 生 債 権 等	726		778	
9.長期前払費用	84		102	
10.差 入 保 証 金	5,001		4,967	
11.繰延税金資産	-		2,495	
12.そ の 他	3,474		2,216	
13.貸 倒 引 当 金	1,854		707	
投資その他の資産合計	87,305	41.0	62,561	32.0
固定資産合計	92,344	43.4	67,209	34.4
資 産 合 計	212,773	100	195,229	100

(単位:百万円)

				20:百万円)
期別	当 期 末		前期非	
科目	平成 13 年 12 月 31		平成 12 年 12 月 31	
	金額	金	金額	構成比
(負債の部)		%		%
流動負債				
1.支 払 手 形 5,9	44,214		42,489	
2.買 掛 金 5	34,988		36,049	
3.未 払 金	1,911		1,704	
4.未払法人税等	14		1,613	
5.前 受 金	386		652	
6.預 り 金	312		555	
7.賞 与 引 当 金	1,170		1,020	
8. 本社移転損失引当金	468		-	
9.そ の 他	337		371	
流動負債合計 固定負債	83,803	39.4	84,456	43.2
1.退職給与引当金	_		2,881	
2.退職給付引当金	3,125		-	
3.役員退職慰労引当金	961		-	
4.繰 延 税 金 負 債	7,684		-	
5.そ の 他	658		966	
固 定 負 債 合 計	12,429	5.8	3,847	2.0
負 債 合 計	96,232	45.2	88,304	45.2
(資本の部)				
資本金6	37,581	17.7	37,581	19.3
資本準備金	40,607	19.1	40,607	20.8
利 益 準 備 金	1,555	0.7	1,446	0.7
その他の剰余金				
(1)任 意 積 立 金				
1.配当準備積立金	1,100		1,000	
2 .退職慰労積立金	1,050		850	
3.別 途 積 立 金	23,419		21,919	
任意積立金合計	25,569		23,769	
(2)当期未処分利益又は	1,268		3,520	
当期未処理損失 ()				
その他の剰余金合計	24,300	11.4	27,290	14.0
その他有価証券評価差額金	14,789	6.9	-	
自己株式	2,293	1.0	-	
資本合計	116,540	54.8	106,925	54.8
負債及び資本合計	212,773	100	195,229	100

2. 損益計算書 (単位:百万円)

	= 7	当 期		Ē	前 期	
期別	自 平成 13 年 1月 1				12年 1月 1日	
科目		13年12月31			以12年12月31	1
	金	額	百分比	金	額	百分比
			%			%
- 売 上 高 -						
1.広告取扱高	232,963			226,507		
2.制 作 売 上 高	125,867	358,830	100	114,381	340,888	100
売 上 原 価						
1.広告取扱仕入高	205,765			199,561		
2.制 作 費	116,075	321,841	89.7	104,761	304,322	89.3
売 上 総 利 益		36,989	10.3		36,565	10.7
販売費及び一般管理費 1						
1.貸倒引当金繰入額	350			366		
2.交 際 費	826			729		
3.給 与 手 当	17,101			17,662		
4.賞与引当金繰入額	1,170			1,020		
5. 退職合与引当金繰入額	-			416		
6.退職給付費用	1,174			-		
7.役員退職慰労引当金繰入額	79			-		
8.法 定 福 利 費	1,750			1,705		
9.旅費交通費	1,046			1,124		
10.賃 借 料	2,745			2,820		
11.コンピューター費	1,873 176			1,796 203		
12.減 価 償 却 費 13.そ の 他	4,609	32,903	9.2	5,103	32,947	9.7
営業利益	4,009	4,085	1.1	3,103	3,618	1.0
営業外収益		4,000	1.1		3,010	1.0
日来/T-W	92			68		
	150			134		
3.受取配当金2	579			492		
4.有価証券売却益	-			124		
5.生命保険契約配当金	128			104		
6.為 替 差 益	152			-		
7.そ の 他	208	1,312	0.4	355	1,278	0.4
営業 外費 用						
1.社 債 利 息	-			4		
2.有価証券売却損	-			43		
3.有価証券評価損	-			5		
4.売 上 割 引	20			18		
5.匿名組合運用損	56			-		
6.そ の 他	33	110	0.0	7	78	0.0
経常利益		5,287	1.5		4,818	1.4

		当 期			前期	
期別科目	自 平成 13 年 1 月 1 日 至 平成 13 年 12 月 31 日				戊12 年 1 月 1 戊12 年 12 月 31	
	金	額	百分比	金	額	百分比
特前 固投 投 関関退変員ル貸 所	金 2,217 95 15 530 1 1 18 2,581 172 33 262 2,902 881 165 1,017 16 660 266 - - - 468 1,100 - 615	9,449 1,303 484 1,787 1,029	0.8 2.7 0.4 0.1 0.5	金 - 6 842 - 4 29 400 8 - - - - - - 262 309 125 14 3 2 - - - 2,990 1,713 2,457	849 1,162 4,505 2,245 2,259 985 787	0.2 0.3 1.3 0.6 0.7
中間配当額中間出海		464 46			464 46	
当期未処分利益又は 当期未処理損失()		1,268			3,520	

(単位:百万円)

	<u> </u>				
株主総会承認年月日	当 期 (案) 株主総会承認予定日 平成 14 年 3 月 28 日		前 株 主 総 纪 平成 13 年	期 会承認日 3月29日	
科目	金	額	金	客頁	
当期未処分利益又は 当期未処理損失()		1,268		3,520	
任意積立金取崩額					
1.退職慰労積立金取崩額	1,050		-		
2.別途積立金取崩額	1,700	2,750	-	-	
合計		1,481		3,520	
利 益 処 分 額					
1.利 益 準 備 金	-		62		
2.配 当 金	455		568		
3.取 締 役 賞 与 金	-		60		
4.任 意 積 立 金					
配当準備積立金	-		100		
退職慰労積立金	-		200		
別途積立金	-	455	1,500	2,490	
次期繰越利益		1,025		1,029	

(注) 1. 前期につきましては、平成12年6月30日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載された株主に対して、平成12年9月20日付で1株につき9円、総額464百万円の中間配当を実施するとともに、46百万円の利益準備金繰入を実施いたしました。

なお、期末配当金の内訳は、普通配当1株につき9円、創立45周年記念配当1株につき2円であります。

- 2. 当期につきましては、平成13年6月30日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載された株主に対して、平成13年9月26日付で1株につき9円、総額464百万円の中間配当を実施するとともに、46百万円の利益準備金繰入を実施いたしました。
- 3. 当期の期末配当金は、普通配当1株につき9円の予定であります。
- 4. 当期の期末配当金は、自己株式 1,002,631 株分を除いております。

期別	当 期 自 平成13年 1月 1日 当 期 至 平成13年12日31日	<u>→</u> 曲 自 平成12年 1月 1日
項目	エ 1/3(13年12/131日	^{則 期} 至平成12年12月31日
1 . 有価証券の評価基 準及び評価方法	子会社株式及び関連会社株式 …総平均法による原価法 	取引所の相場のある有価証券 …総平均法による低価法 (洗い替え方式)
	その他有価証券 時価のあるもの …決算末日の市場価額に基づく時価 法(評価差額は全部資本直入法により処 理し、売却原価は総平均法により算定) 時価のないもの …総平均法による原価法	その他の有価証券 …総平均法による原価法
2 . たな卸資産の評価 基準及び評価方法	個別法による原価法	同 左
3.デリバティブ取引に より生じる正味の債 権(及び債務)の評 価基準及び評価方 法	時価法	
4 . 固定資産の減価償 却の方法	有形固定資産 定率法 なお、耐用年数及び残存価額につい ては、法人税法に規定する方法と同一の 基準によっております。 ただし、平成10年4月1日以降取得の 建物(建物附属設備を除く)については、 定額法を採用しております。	法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。 有形固定資産 …定率法 なお、法人税法の改正に伴い、平成10年4月1日以降取得の建物 (建物附属設備を除く)については、定額法を採用しております。
	無形固定資産 定額法 なお、ソフトウェア(自社利用分)につい ては、社内における利用可能期間(5年 以内)に基づく定額法によっております。	無形固定資産及び投資その他の資産 …定額法 但し建物信託受益権については、定率法によっております。また、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。
	投資その他の資産 建物信託受益権については定率法に よっております。	
5 . 引当金の計上基準 (1)貸倒引当金	債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。	債権の貸倒損失に備えるため、法人税法の規定による繰入率(平成10年度の税制改正に伴う経過的法定繰入率)によるほか、債権の回収可能性を個別に検討し、回収不能見込額を計上しております。
(2)賞与引当金	従業員に対する賞与の支払に備える ため、支給見込額に基づき計上しており ます。	同左
(3)退職給与引当金		従業員の退職に伴う退職金の支払に備えるため、期末自己都合退職金要支給額の50%を計上しております。ただし、退職金の一部については、適格退職年金制度を採用しおりますので、期末退職金要支給額は、適格退職年金契約に基づく給付金相当額を差し引いております。

期別	当 期 自 平成13年 1月 1日 当 期 至 平成13年12月31日	前期 5 平成12年1月1日
項目 (4)退職給付引当金	従業員の退職給付に備えるため、当期末	型 至 平成12年12月31日
(4)	における退職給付債務および年金資産の	
	見込額に基づき、当期末において発生し	
	ていると認められる額を計上しておりま	
	す。 なお、会計基準変更時差異(2,902 百万	
	円)につきましては、一括費用処理する	
	こととし、当期において、その全額を特	
	別損失に計上しております。	
(5)役員退職慰労引当金	役員(取締役及び監査役)の退職慰労	
	金の支出に備えるため、内規に基づく期	
	末要支給額を計上しております。 (会計方針の変更)	
	役員退職慰労金は、従来、支出時の	
	で見られたが、近年、 費用として処理しておりましたが、近年、	
	役員退職慰労引当金の計上が会計慣	
	行として定着していること、及び役員の	
	退職による支出時に予想される一時的	
	費用を在任期間に対応し、もって期間	
	損益計算の適正化を図るため、当期より	
	内規に基づく期末要支給額を計上する	
	方法に変更いたしました。	
	この変更に伴い、当期発生額79百万	
	円は販売費及び一般管理費に、過年度	
	相当額881百万円は特別損失に計上し	
	ております。この結果、従来の方法によ	
	った場合に比べ営業利益及び経常利	
	益は、それぞれ79百万円少なく、税引	
	前当期純損失は961百万円多く計上さ	
	れております。	
	なお、上記変更の決定及び実施が当	
	下半期においてなされたため、当中間	
	期においては、従来の基準によってお	
	り、変更後の基準によった場合に比べ、	
	営業利益及び経常利益はそれぞれそ	
	れぞれ39百万円多く、税引前中間純損	
	失は920百万円少なく計上されておりま	
	す。	
┃ (6)本社移転損失引当金	平成14年11月の本社移転に伴い発生	
(~)1 = 0 +015// 31 = 1	する損失に備えるため、固定資産除却	
	損、原状回復費用等移転損失の見込額	
	のうち、当期の負担額を計上しておりま	
	す。	

期別	、、 由 自 平成13年 1月 1日	→ + 由 平成12年 1月 1日
項目	当期 百平成13年1月1日 至平成13年12月31日	前 期 至 平成12年17月1日
6.収益の計上基準		
(1)広告取扱高	雑誌・新聞については広告掲載日、テレビ・ラジオについては、放送日によっております。	同 左
(2)制作 売 上 高	広告物の納入日によっております。	同 左
7.ヘッジ会計の方法	(1) ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理によっております。 ただし、外貨建金銭債権債務をヘッ ジ対象とする為替予約については振当 処理によっております。	
	(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 …為替予約取引 ヘッジ対象 …外貨建金銭債権債務、外貨建予定 取引	
	(3) ヘッジ方針 主として外貨建金銭債権債務、外貨 建予定取引に係る為替の変動リスク の軽減を目的として為替予約取引を 行っております。 (4) ヘッジ有効性評価の方法 当社が利用している為替予約取引 は、リスク管理方針に従い実需取引に より実行しており、予約した段の高替 相場の変動による相関関係は完全に 確保されているので、決算日におけ 有効性の評価を省略しております。	
8.リース取引の処理方法	リース物件の所有権が借主に移転する と認められるもの以外のファイナンス・リー ス取引については、通常の賃貸借取引に 係る方法に準じた会計処理によっており ます。	同 左

期別項目	当期	自 平成13年 1月 1日 至 平成13年12月31日	前 期 自 平成12年 1月 1日 前 期 至 平成12年12月31日
9.その他の財務諸表作成のための重要な事項(1)適格限制(1)適格限制(1)適格限制(1)			当社は、昭和51年4月より、従来の退職金制度とは別に、適格退職年金制度を採用しております。また、昭和56年9月より、退職金制度の一部についても、適格退職年金制度に移行しております。適格退職年金制度の概要(1)加入者全従業員(2)年金資産の合計額平城12年2月29円駐4,812百万円(3)過去勤務費用の掛金期間4年なお、掛金の積立方法は過去勤務費用の現在額に一定率を乗じる方法によっております。
(2)厚 生年金基金 制度			当社は、昭和58年5月より、従来の退職金制度に上積みして広告業業界の総合型厚生年金基金制度(加算型)を採用しております。 厚生年金基金制度の概要 (1)名称日本広告業量生年金基金(2)加入者全従業員(3)年金資産の合計額平成12年3月31日駐53,020百万円(うち厚生年金保険法第85条の2に規定する責任準備金の額は35,866百万円であります。)(4)加入人員比基金加入者全体を100%としたとき、当社の加入人員割合は、10.7%であります。(5)過去勤務費用はありません。
(3)消費税等の会計 処理	消費税及び 抜方式によって	地方消費税については税 おります。	同 左

自 平成13年1月1日 当 期 至 平成13年12月31日 前 期 至 平成12年1月1日

(貸借対照表関係)

「未収入金」は資産総額の1/100を超えたため、独立掲記することといたしました。なお、前期は流動資産の「その他」に181百万円含まれております。

(損益計算書関係)

「為替差益」は営業外収益の10/100を超えたため、独立掲記することといたしました。なお、前期は営業外収益の「その他」に123百万円含まれております。

(貸借対照表関係)

- (1) 前期において独立掲記していた「電話加入権」(当期76百万円)及び「施設利用権」(当期1百万円)は、資産総額の1/100以下であるため、当期においては無形固定資産の「その他」に含めて表示しております。
- (2) 前期において独立掲記していた「事業保険掛金」 (当期341百万円)は、資産総額の1/100以下である ため、当期においては投資その他の資産の「その他」 に含めて表示しております。
- (3) 前期において独立掲記していた「未払消費税等」 (当期369百万円)は、負債及び資本総額の1/100 以下であるため、当期においては流動負債の「その 他」に含めて表示しております。
- (4) 前期において独立掲記していた「長期未払金」(当期908百万円)及び「預り保証金」(当期57百万円)は、負債及び資本総額の1/100以下であるため、当期においては固定負債の「その他」に含めて表示しております。

(損益計算書関係)

- (5) 前期において独立掲記していた「役員報酬」(当期490百万円)、「従業員給与」(当期12,460百万円)及び「従業員賞与」(当期4,710百万円)については、当期より「給与手当」として一括して表示しております。
- (6) 前期において独立掲記していた「販売促進費」(当期261百万円)、「退職金」(当期21百万円)及び「退職年金掛金」(当期555百万円)は、販売費及び一般管理費の総額の5/100以下であるため、当期においては販売費及び一般管理費の「その他」に含めて表示しております。

当 期 自 平成13年1月1日 至 平成13年12月31日 前 期 自 平成12年1月1日 至 平成12年12月31日

(退職給付会計)

当期より退職給付に係る会計基準(「退職給付に係る会計基準の設定に関する意見書」(企業会計審議会平成10年6月16日))を適用しております。

この結果、従来の方法によった場合に比べ、退職給付会計基準変更時差異償却額を含む退職給付費用が2,748百万円多く計上され、営業利益及び経常利益がそれぞれ153百万円多く、税引前当期純損失が2,748百万円多く計上されております。また、上記のほか、退職給付信託を設定したことに伴う退職給付信託設定益530百万円は、特別利益に計上しております。

なお、前期末の退職給与引当金は当期首において 退職給付引当金に振替えております。

(金融商品会計)

当期より金融商品に係る会計基準(「金融商品に係る会計基準の設定に関する意見書」(企業会計審議会平成11年1月22日))を適用し、有価証券の評価方法およびゴルフ会員権を始めとするその他金融商品の評価方法について変更しております。

この結果、従来の方法によった場合に比べ、経常利益は8百万円少なく、税引前当期純損失は1,644百万円少なく計上されております。

なお、その他有価証券のうち時価のあるものについては、時価評価を実施し、評価差額から税効果額を控除した14,789百万円をその他有価証券評価差額金として、資本の部に計上しております。

また、期首時点で保有する有価証券の保有目的を検討し、その他有価証券に含まれている債券のうち1年以内に満期の到来するもの及び預金と同様の性格を有するものは流動資産の有価証券として、それら以外は投資有価証券として表示しております。この結果、流動資産の有価証券は2,158百万円減少し、投資有価証券は同額増加しております。

(外貨建取引等会計基準)

当期より改訂後の外貨建取引等会計処理基準(「外 貨建取引等会計処理基準の改訂に関する意見書」(企 業会計審議会平成11年10月22日)を適用しておりま す。

この変更による損益への影響は軽微であります。

(自己株式の表示方法)

前期まで流動資産に表示しておりました「自己株式」は、財務諸表等規則の改正により、当期より資本の部の控除項目として資本の部の末尾に表示しております。

(自社利用のソフトウェア)

自社利用のソフトウェアについては、「研究開発費及びソフトウェアの会計処理に関する実務指針」(日本公認会計士協会会計制度委員会報告第12号 平成11年3月31日)の経過措置の適用により、従来の会計処理方法を継続して適用しております。ただし、同報告により上記に係るソフトウェアの表示については、当期より投資その他の資産の「その他」(当期末1,664百万円)から無形固定資産の「ソフトウェア」に変更しております。

なお、減価償却方法は、社内における利用可能期間 (5年)に基づく定額法によっております。

(税効果会計の適用)

財務諸表等規則の改正により、当期から税効果会計を適用しております。

この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べ、繰延税金資産3,244百万円(流動資産749百万円、固定資産2,495百万円)が計上され、当期利益は2,457百万円多く、当期未処分利益は3,244百万円多く計上されております。

注 記 事 項

(貸借対照表関係) 平成13年12月31日現在 前 期 平成12年12月31日現在 期 1.有形固定資産の減価(禁収票) 額 1,774百万円 1,741百万円 2. 取引先に対する営業保証金として差入れている 2.取引先に対する営業保証金として差入れている ものが次のとおりあります。 ものが次のとおりあります。 有 19百万円 価 証 券 有 価 証 券 19百万円 投資有価証券 5 5 百万円 投資有価証券 3 3 百万円 7 5 百万円 計 5 2 百万円 3. 広告物の制作等はもっぱら外注に依存しており、 工程毎にそれぞれの外注先を使用するのが通常と 同 左 3. なっております。よって制作工程の途中にあるもので、すでに、役務提供等の終了した工程に係る外注 先への支払額および支払の確定した金額を集計し たものであります。 4 . 主な外貨建資産・負債 決算日の為 貸借対照表 科 外貨額 替による円 額 目 差 上 額 挴 有 価 証 券 US\$ (受益証券) 9 訪 1,002 百万円 US\$ 投資有価証券 3莇 808 百万円 FFR (株式) US\$ 5 百万 HK\$ 25 百万 NT\$ 関係会社株式 95 百万 24,713 百万円 NLG 22 百万 Stg £ 132 百万 その他の外貨 US\$ 0 百万 関係会社 54 百万円 BATH 620 百万円 565 百万円 長期貸付金 (損) 21 百万 S\$ 6百万 5. 関係会社に係る注記 5. 関係会社に係る注記 区分掲記されたもの以外で各科目に含まれて いる関係会社に対するもののうち主なものは次の とおりであります。 とおりであります。 売支 掛 963百万円 掛 859百万円 形

払 手 形 掛 晋

200百万円 1.9 4 7 百万円

- 6. 会社が発行する株式の総数 206,000,000株 発行株式の総数 51,655,400株
- 7. 配当制限

有価証券の時価評価により、純資産額が14,789 百万円増加しております。

なお、当該金額は商法第290条第1項第6号の規 定により、配当に充当することが制限されております。

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれて いる関係会社に対するもののうち主なものは次の

払 掛 金

455百万円 1.4 4 1 百万円

同 6. 左

7.

当 期 平成13年12月31日現在 前 期 平成12年12月31日現在 保 保 証債務 証 債 務 8. 関係会社に対して次のとおり債務保証を行っ 関係会社に対して次のとおり債務保証を行っ ております。 ております。 株アサソーインターナショナル 金掛買 (株)アサソーインターナショナル 買掛金 (株第一介画コミュニケーションズ) 借入金 (株第一介画ロミュニケーションズ 借入金 100百万円 135百万円 (株)三友エージェンシー (株)三友エージェンシー 50百百万円 借入金 買掛金 1百万円 ㈱第−企画リレーションシップマーケティング 支払手形 借入金 500百万円 2百万円 ㈱第−企画リレーションシップマーケティング 支払手形 買掛金 46百万円 43百万円 太一廣告股份有限公司 借入金 NT\$ 16百万 6 1 百万円 置掛金 56百万円 " ASATSU(MALAYSIA)SDN.BHD. 借入金 RM 3百万 107百万円 (株)ドットモビィ 未払金 105百万円 Dai-Idhi Kikaku(Malavsia)Sdn.Bhd. 借入金 RM1百万 50百万円 太一廣告股份有限公司 借入金 NT\$ 16百万 5 9 百万円 NEXUS/ASATSU 借入金 S\$ 3百万 245百万円 ASATSU(MALAYSIA)SDN.BHD. 借入金 RM 2百万 80百万円 ADVERTISING PTE.LTD. Dai-Ichi Kikaku(Malaysia)Sch.Bhd. 借入金 RM 1 百万 5 9 百万円 ASATSU (THAILAND)CO.,LTD. 借入金 TB 39百万 118百개 NEXUS/ASATSU 借入金 S\$ 4百万 295百万円 IMMG Pte. Ltd. 借入金 S\$ 0百万 7百万円 ADVERTISING PTE.LTD. ASATSU (THAILAND)CO.,LTD. 借入金 TB 8百万 借入金 US\$ 0 百万 13百万円 22百万円 MEDIA PLUS COMMUNICATIONS LTD. 借入金 NT\$ 14百万 5 4 百万円 IMMG Pte. Ltd. 借入金 7百万円 S\$ 0百万 北京全威第一企画有限公司 借入金 174百万円 MEDIA PLUS COMMUNICATIONS LTD. 借入金 44百万円 NT\$ 13百万 中旭国際股イ分有限公司 借入金 NT\$ 7百万 28百万円 北京全威第一企画有限公司 借入金 75百万円 借入金 NT\$ 15百万 北京華聞旭通国際広告有限公司 借入金 US\$ 1百万 133百万円 5 1 百万円 中旭国際股I分有限公司 借入金 3 6百万円 1.5 4 1百万円 広東旭広告有限公司 借入金 RMB 1百万 15百万円 1,254百万円 外貨建保証債務は、決算日の為替相場により円換算 外貨建保証債務は、決算日の為替相場により円換算 しております。 しております。 . 当期末日は金融機関の休日でありますが、当該期日の満期手形の会計処理は、満期日に決済が行われたものとして処理しております。その金額は . 当期末日は金融機関の休日でありますが、当該 期日の満期手形の会計処理は、満期日に決済が行 われたものとして処理しております。その金額は次の とおりであります。 次のとおりであります。 取手 1,077百万円 形 1,435百万円 取 受 受 手 支 支 丰 手 形 払 2,930百万円 払 形 2,703百万円

(損益計算書関係)		
自 平成13年 1月 1日 当 期 至 平成13年12月31日	自 平成1 2年 1月 1 前 期 至 平成1 2年1 2月3 1	
1 . 販売費及び一般管理費に含まれる研究開発費は、935百万円であります。	1 . 販売費及び一般管理費に含まれる研究開発 は、651百万円であります。	Ě費
2.受取配当金のうち関係会社からのもの 376百万円	2.受取配当金のうち関係会社からのもの 255百万	万円
3.プリンストン債の損害賠償訴訟による和解金から訴訟に係る費用を控除した金額であります。	3.	
4. 固定資産売却益の内容はつぎのとおりです。 建 物 9 1 百万円	4.固定資産売却益の内容はつぎのとおりです。 建 物 0百万円 車両運搬具 1百万円 器具備品 0百万円 土 地 4百万円 計 6百万円 5.固定資産売却損の内容は次のとおりであります 車両運搬具 1百万円 会員資格保証金 3百万円	9 9 9 9 7 8 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9
6 . 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。 車 両 運 搬 具 0 百万円 <u>器 具 備 品 1 8 百万円</u> 計 1 8 百万円	計 4 百万月 6 . 固定資産除却損の内容は次のとおりであります 建 物 0 百万円 構 築 物 1 7 百万円 器 具 備 品 1 2 百万円 計 2 9 百万円	Γ.]]]

自 平成13 ³ 当 期 至 平成13 ³		自 平成12年 1月 1日 前 期 至 平成12年12月31日		
7.投資有価証券評価損は、減損処理に り、の内容は次のとおりであります。	_	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
株式 受益証券	2,241百万円 339百万円	低価法の適用に基づく評価損 385百万円 商法の規定に基づく強制評価損 14百万円		
計	2,581百万円	計 400百元		
8.役員退職慰労引当金の過年度相当		8.		
9 . 長期貸付金等に係る個別引当分 員権減損処理によるものであります。	∱及びゴルフ会 	9.		
10. 転進支援制度による退職者に支給した退職加 10. 早期退職優遇制度による退職者に支給した 算金であります。 職加算金であります。				
11. 関係会社である㈱ドットモビィ他3	社に係るものであ	11. 関係会社である ASTSU Advertising(M)Sdn.BHd.		
り内訳は以下のとおりであります。 		及び㈱大洋製版に係るものであり内訳は以下のとりであります。		
(株)ドットモビィ その他 3 社	254百円 11百円	商法の規定に基づく株式の強制評価損 8百万円 長期貸付金に対する貸倒引当金繰入額 117百万円		
計	266百万円	計 125百万円		

自 平成13年 1月 1日 当 至 平成13年12月31日

自 平成12年 1月 1日 前 至 平成12年12月31日

リース物件の所有者が借主に移転すると認められるも の以外のファイナンス・リース取引

(1)リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額 相当額及び期末残高相当額

(単位:白力円				
	取得価額相 当額	減価償却累計額 組織	期末残高相 当額	
車両運搬具	35	19	16	
器具備品	3,447	1,803	1,643	
ソフトウェア	261	47	213	
合 計	3,744	1,870	1,874	

(2) 未経過リース料期末残高相当額

	1 f	手 _左 以 内	672百万円
_	<u> </u>	<u> </u>	1,2 4 3 百万円 1 0 1 5 百万円
		<u> </u>	1.9 1 3 日 川 口

支 払 リ ー ス 料 減価償却費相当額 支払利息相当額

857百万円 795百万円 5 3 百万円

(4) 減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする 定額法によっております。

(5) 利息相当額の算定方法 リース料総額とリース物件の取得価額相当額の 差額を利息相当額とし、各期への配分方法につい ては、利息法によっております。

リース物件の所有者が借主に移転すると認められるも の以外のファイナンス・リース取引

(1)リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額 相当額及び期末残高相当額

(単位:百万円)

			(+ + + + + + + +
	取得価額相 当額	減価償却累計額 組織	期末残高相 当額
車両運搬具	38	18	20
器具備品	3,531	1,960	1,571
ソフトウェア	76	39	37
合 計	3,647	2,017	1,629

(2) 未経過リース料期末残高相当額

1 1	年 以 内	6 8 2 百万円 9 9 4 百万円
一 合	 計	1,6 7 6百万円

(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

支払リース料 減価償却費相当額 支払利息相当額

834百万円 771百万円 5 2 百万円

(4) 減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする 定額法によっております。

(5) 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額の 差額を利息相当額とし、各期への配分方法につい ては、利息法によっております。

(有価証券の時価等関係)

前連結会計年度に係る「有価証券の時価等」及び当連結会計年度に係る「有価証券」(子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものは除く)に関する注記については、連結財務諸表における注記事項として記載しております。

当期(平成13年12月31日現在)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるもの

種類	貸借対照表計上額	時 価	差額
	百万円	百万円	百万円
関連会社株式	1,432	4,796	3,364

(注)時価(時価相当額を含む)の算定方法

上 場 有 価 証 券 大阪証券取引所の最終価格によっております。

(単位:百万円)

			(早位:日月月)	
当 期 平成13年12月31E		前 期 平成12年12月31日現在		
1 . 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の		1 . 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生	の主な原因別の	
内訳		内訳		
(繰延税金資産)		(繰延税金資産)		
貸倒引当金限度超過額	869	貸倒引当金限度超過額	350	
賞与引当金限度超過額	277	賞与引当金限度超過額	136	
本社移転損失引当金	196	未払事業税	270	
退職給付引当金限度超過額	1,789	退職給与引当金限度超過額	570	
役員退職慰労引当金	404	有価証券評価損否認	1,595	
有価証券評価損否認	210	その他	328	
投資有価証券評価損否認	148	繰延税金資産小計	3,252	
その他	185	評価性引当金	-	
——操延税金資産小計	4,082	繰延税金資産合計	3,252	
評価性引当金	-	(繰延税金負債)	,	
操延税金資産合計	4,082	その他	7	
(繰延税金負債)		繰延税金負債合計	7	
退職給付信託設定益否認	222			
その他有価証券評価差額金	10,731			
繰延税金負債合計	10,953			
繰延税金負債の純額	6,871			
 2 . 法定実効税率と税効果適用後の法人税等	の負担率との差	 2 . 法定実効税率と税効果適用後の法人税等	の負担率との差	
異の原因となった主な項目別の内訳	の共二十二の在	異の原因となった主な項目別の内訳	の女正中との在	
税金等調整前当期純損失を計上してい	るため、記載を	法定実効税率	42.05%	
省略しております。	Ø/C • Ø/	(調整)	12.0370	
		交際費等永久に損金に算入されない項目	9.68	
		文 院員 寺 水 人 に 損 並 に 昇 八 さ れ な い 項 日 受 取 配 当 金 等 永 久 に 益 金 に 算 入 さ れ な い 項 目	1.77	
		家付金等永久に損金に算入されない項目 寄付金等永久に損金に算入されない項目	1.48	
		すり	1.66	
		税効果適用後の法人税等の負担率	49.78%	
			43.70%	

(1株当たり情報)

当	期	前	期
1 株 当 た り 純 資 産 額	2,300円77銭	1 株当たり純資産額	2,069円97銭
1株当たり当期純損失 なお、潜在株式調整後の1様 いては、新株引受権付社債 ないため記載しておりません。	34円70銭 朱当たりの当期純利益につ 及び転換社債を発行してい		43円74銭 k当たりの当期純利益につい び転換社債を発行していない

<u>4. 部門別売上</u> (単位:百万円)

	期別	当 自 平成13年 至 平成13年		前 自 平成12年 至 平成12年1		増 減 金 額	対 前 期増 減 率
X	分	金額	構成比	金額	構成比		
			%		%		%
広	雑 誌	21,319	5.9	24,267	7.1	2,948	12.1
告	新聞	36,937	10.3	39,644	11.6	2,707	6.8
取	テレビ	164,242	45.8	154,927	45.4	9,314	6.0
扱	デジタルメディア	5,995	1.7	3,399	1.0	2,595	76.3
高	ラ ジ オ	4,469	1.2	4,267	1.3	201	4.7
/	小 計	232,963	64.9	226,507	66.4	6,456	2.8
制売	セールスプ ロモーション	81,333	22.7	68,646	20.2	12,687	18.5
上作高	制作・その他	44,534	12.4	45,735	13.4	1,201	2.6
小	計	125,867	35.1	114,381	33.6	11,485	10.0
台	計	358,830	100	340,888	100	17,942	5.3

⁽注) 1. セールスプロモーションの主な内容は、交通広告、屋外広告、ダイレクトメール、折込広告、POP(店頭販促物)の制作、スポーツ・文化事業等です。

^{2.}制作とは、主として媒体(雑誌、新聞、テレビ、デジタルメディア、ラジオ)にのせる広告表現に関する企画、立案等を行う業務です。

役員の異動(平成14年3月28日予定)

1.新任取締役候補者

取締役 中嶋健二 (現業務役員第1メディアカンパニープレジデント)

取締役 広瀬 英昭 (現業務役員第4ADカンパニープレジデント)

取締役 菱山 武雄 (現業務役員 経営サポートセンタープレジデント)

取締役 森 賢二 (現業務役員第1ADカンパニープレジデント)

2.新任監査役候補者

常勤監査役 本多 昭次 (現 東京ダイヤモンド・グローバルサービス㈱常務取締役)

なお、本多氏は「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法

律」第18条第1項に定める社外監査役であります。

3. 退任予定取締役

辻 正嗣 (現 取締役上席副社長) (㈱協和企画代表取締役副社長就任予定

貞方 光雄 (現 取締役副社長) 特別顧問就任予定

山口 寛 (現 取締役副社長)

坂野 良一 (現 専務取締役) 特別顧問就任予定

矢部 正明 (現 常務取締役)

多氣田 力 (現 取締役相談役) 相談役就任予定

金田 武史 (現 取締役) (株)協和企画取締役就任予定

4. 退任予定監査役

中鉢 龍範 (現 常勤監査役)

なお、中鉢氏は「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役であります。